先住民族アイヌの歴史・文化の伝承と発信

―多彩な展示と体験・交流を観光振興につなげる―

ウポポイ（民族共生象徴空間）が4月24日オープン

―国立アイヌ民族博物館など6施設が完成―

北海道 白老町

先住民族アイヌの文化復興拠点として国が北海道白老町に設置する「民族共生象徴空間」（愛称＝ウポポイ）。4月24日の開業まで2カ月余りとなり、その整備が急ピッチで進んでいる。昨年末までに中核施設の国立アイヌ民族博物館をはじめ、体験交流ホール、体験学習館、工房などの主要施設が完成。現在、展示物や資料・解説の整備、案内板の設置、体験交流プログラムの選定、リハーサルなど開業に向けた作業の最中で、間もなくエントランス棟の飲食店や物販店の入店も始まる。また、昨年9月には入場料金が決定。国や道、運営主体であるアイヌ民族文化財団らによる誘客活動が本格化し、12月16日から修学旅行の申し込み受け付けも始まった。

ウポポイ全景（イメージ図）※写真・イメージ図は文化庁、国土交通省、アイヌ民族文化財団提供

民族共生象徴空間（愛称＝ウポポイ＝アイヌ語で「おおぜいで歌うこと」の意）は、国が2014年に先住民族アイヌの歴史・文化に対する理解を深める拠点として北海道白老町に設置する基本方針を決定し、2017年から同町ポロト湖畔の約10㌶の敷地に総工費約200億円をかけて整備を進めてきた。

アイヌ民族博物館を中核施設に、古式舞踊などを披露する体験交流ホール、食や工芸などの文化体験を提供する体験学習館、工芸品の製作実演を行う工房、伝統的コタン（集落）、広場からなる民族共生公園と、慰霊施設で構成。入場者数の目標は年間100万人で、管理運営はアイヌ施策推進に基づき公益財団法人アイヌ民族文化財団が行う。

入場料は、大人1200円（20人以上の団体960円）、高校生600円（同480円）で、小中学生は無料。一部、有料の体験プログラムもある。

開園は平日が9時から18時（11～3月は17時）で、9～10月の土日祝日と7～8月は20時まで。休園日は毎週月曜。

7～8月の夜間営業時には、展示でのアイヌの物語をテーマにしたプロジェクションマッピングなども予定している。

ウポポイの総合調整を担当する内閣官房アイヌ総合政策室は「アイヌ民族の歴史・文化をテーマとする初のナショナルセンターとして、準備は順調に進んでいる」と説明。管理運営に当たるアイヌ民族文化財団でも、「来場者に提供する体験プログラムの準備も、伝統文化の伝承に熱い思いを持ったアイヌの若者たちが中心になってしっかりと進んでいる」と話し、オープンを楽しみ町。

白老町は、道都の札幌市から南に約100㌔の距離にある太平洋に面した人口約1万7千人の町。

札幌市からは、JR特急が都市間バス、あるいは車で高速道路を通って1時間ほどで、空の玄関である新千歳空港からも、30分ほどで行くことができる。

国立アイヌ民族博物館

先住民族アイヌを主題、語、歴史、生活など六つとした初の国立博物館のテーマに分けて、伝統的な文類や儀礼具など貴重な資料約700点を展示。音声ガイドには、日本語、英語、中国語、アイヌ語など8言語を入れている。

展示の目玉の一つが、延べ床面積8600平方㍍と巨大だが、高さを抑えた造りとしている。

2階が展示室で、基本展示室と特別展示室で構成。基本展示室では、言葉に波よけ板を取り付けたヒモ穴が残る出土品（イタオマチプ）の基底部。船縁（つづり）舟（イタ）、アイヌ民族の外洋向け丸木舟「板綴（つづり）舟」などを紹介する。

建物は地上2階建て、幅130㍍、奥行き40㍍、延べ床面積8600平方㍍と巨大だが、高さを抑え、屋根の稜線や色も、周囲の自然環境に合わせた造りとしている。

7～8月の夜間営業時には、展示でのアイヌの物語をテーマにしたプロジェクションマッピングなども予定している。

ウポポイの総合調整を担当する内閣官房アイヌ総合政策室は「アイヌ民族の歴史・文化をテーマとする初のナショナルセンターとして、準備は順調に進んでいる」と説明。

管理運営に当たるアイヌ民族文化財団でも、「来場者に提供する体験プログラムの準備も、伝統文化の伝承に熱い思いを持ったアイヌの若者たちが中心になってしっかりと進んでいる」と話し、オープンを楽しみ町。

白老町は、道都の札幌市から南に約100㌔の距離にある太平洋に面した人口約1万7千人の町。

札幌市からは、JR特急が都市間バス、あるいは車で高速道路を通って1時間ほどで、空の玄関である新千歳空港からも、30分ほどで行くことができる。

古式舞踊の上演

体験交流ホール

ユネスコ無形文化財に登録されている古式舞踊や伝統楽器のムックリ（口琴）、トンコリ（五弦琴）の演奏など上演。北海道の美しい風景を最新の映像技術を使って取り入れた演出も行い、アイヌの伝統芸能を体感してもらう。

536席あるホールは、半円形のステージを囲んで2階までの吹き抜けになっている。ステージと客席の間が近く、出演者と観客が顔の見える交流をすることができ、会場一体となって楽しむことができる。

ステージ奥の暗幕を開けるとポロト湖の風景が目の前に広がる借景窓を取り入れた設計も一つの演出だ。

毎日、4～6回の上演が行われる。

基本展示室（イメージ図）

体験学習館

修学旅行などの団体客は、位に分けて使うが、仕切りを外すと最大400人まで利用できる。

また、紙芝居や人形劇、伝統的儀式を見学すること、とやアイヌ文様が施されたエントランス棟は建築過程が見られるよう開業後の完成としている。

体験学習館にはムックリ（口琴）の演奏や製作体験、オハウ（汁物）などの伝統料理の試食や調理の体験プログラムを提供し、実際のものづくりを通じて、子供たちの目線で楽しみながらアイヌ文化に触れてもらうキッズプログラムも用意している。

体験室は、通常50人単位で使うが、仕切りを外すと最大400人まで利用できる。

また、紙芝居や人形劇、アイヌの玩具を使った遊び、伝統的儀式を見学すること、とやアイヌ文様が施された建築過程が見られるよう開業後の完成としている。

伝統的コタン（集落）

アイヌ民族の伝統的なかやぶきの家屋「チセ」による「コタン（集落）」を再現。「チセ」の中で、伝統的な民族衣装を試着することなどができる。

5棟の「チセ」を建築中で、うち1棟は建築過程が見られるよう開業後の完成としている。

工房

伝統の木彫、刺しゅう、織物など民工芸品の製作実演の見学、実際に工芸家の解説を聞きながらアイヌ文様の木彫作品や刺しゅうを施したコースターなどを作る体験プログラムを提供。

また、伝統技術の伝承に向けた研修も実施している。

体験交流ホール

エントランス・広場など

入場口となるエントランス棟は、円形の広場を囲む設計の建物で、そこには入場券売場や案内所、レストラン、売店などが設けられる。

レストランでは、アイヌの伝統料理や伝統的な食材、調理法を用いた創作料理をはじめ、地元ならではの食事を提供し楽しんでもらう。売店では、ウポポイの記念グッズも販売する。

また、園内に入った博物館正面の湖水に面した場所には、イベントや来場者が景観を楽しみながら芝生の広場が設けられ、園内の樹木類を活用したアイヌ語の名称や利用法などアイヌ民族の知恵を学んでもらう自然観察学習プログラムの用意も進めている。

ムックリ（口琴）の製作体験

観光振興や地域活性化に期待

◆地元の環境整備

ウポポイの開業を迎える地元白老町では、国道や中心街からのアクセス道路の整備、JR駅舎や駅前広場の改修、特急列車停車枠の拡大、都市間バス停の新設など受け入れ環境の整備が進み、商店街による多言語表示や店舗への高めの養成など来場者の歓迎に向けた動きが活発化。町による商業ゾーンの開発やホテル誘致の取り組みにも力が入っている。

◆新名所への期待

年間100万人の入場者を目標とするウポポイの開業は、北海道観光への大きなインパクトとなり、体験観光や教育旅行の拡大につながると期待されている。

前売券の発売はまだだが、12月16日から始まった修学旅行の事前受け付けでは、1月10日現在で道内外から240校、約3万2千人の申し込みと、順調な出だしをみせており、海外のイベントでも反響が大きかったという。

しかし、新設の施設であることもあり、認知度不足であることは否めない。道が行ったネットによる認知度調査では、11月時点ではあるが、道民53・6％、道外在住者6・2％と低い。これをいかに高め、誘客につなげていくかが課題だ。

白老町を含むエリアは、洞爺湖や登別温泉など道内有数の観光資源と食材に恵まれた地域である。

国や道、関係団体では、ウポポイと周辺地域の魅力を組み込んだ情報発信をはじめ、旅行会社の商品造成や教育旅行への売り込み、先住民族の歴史・文化に関心の高い海外市場へのプロモーションの実施など、ウポポイの認知度アップと誘客に注力している。

近年、観光客の志向も「モノ」から「コト」などと変化してきている。

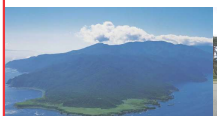
先住民族アイヌの歴史・文化の発信拠点となるウポポイの開業。北海道観光をけん引する新名所として関係者の期待が大きい。

かやぶきの家屋「チセ」

伝統的コタン（集落）での儀礼

手つかずの大自然、北方領土をめぐる歴史、活火山との共生と恵み、食の生産者交流…多様なニーズに応える豊富なコンテンツで生徒一人一人の心に刻まれる。

北海道 北海道 経済部 観光局　HOKKAIDO TOURISM ORGANIZATION 公益社団法人 北海道観光振興機構



［自然学習］広大な大陸的風景の数々。もちろんウィンタースポーツ、アクティビティも充実。

［歴史学習］松前藩から始まり、明治の開拓期に育まれた独特の歴史と文化を知る。

［アイヌ文化学習］厳しく豊かな自然とともに生きてきた先住民族・アイヌの人々の文化に触れる。

［北方領土学習］実際に目で見て、北方領土を正しく理解し、平和について考える。

［防災学習］2000年の噴火で人的被害ゼロだった洞爺湖有珠山の災害遺構を現地見学。

［環境学習］水鳥生息地を守るラムサール条約登録地などで、自然環境保全の重要性を学ぶ。

［産業学習］農業・酪農業・漁業のブランド産地で、作り手の思いに触れ、体験する。

魅力体感！北海道の教育旅行

学校をサポートする 教職員様の視察研修制度 事前学習に活用できるアドバイザー派遣制度 をご用意！詳しくは下記へお気軽にお問合せください。

TEL.011-231-5881　FAX.011-232-5064　E-mail h_nagano@visithkd.or.jp

公益社団法人 北海道観光振興機構 誘客推進本部 国内誘客部 教育旅行係　札幌市中央区北3条西7丁目1-1